

## 縦横

---

あいにくアメリカ政府の国家安全保障勧告システムが 5 段階中の 4 を指している最中に同国を訪れた。聞きしにまさるテロ警戒で、飛行場は何処でも長蛇の列。手荷物検査がまことに厳しい。まず、預託手荷物の検査では、高感度写真フィルムなど感光してしまうに十分な強烈 X 線で中身をチェックし、怪しい映像が見えればすぐに開封して検査する。機内持ち込みの荷物は更に厳重なチェックを受ける。悲惨なのは旅行者の身体の方で、ベルトなど金属類は全て体からはずさせられた上で、脇の下から股間までボディチェック。挙句の果てに靴の底まで検査する。もはや人権など何処吹く風だ。これが外国人には特に厳しいのだが、わけても無査証通過プログラムを適用されていない国や地域の人々には猖獗を極めている。あの自由の女神の体面は丸つぶれだ。

何ゆえにこんな事態に陥ったのかといえれば他にもない、あの 9.11 同時多発テロのためである。東西冷戦の中で旧ソ連のアフガニスタン侵攻に対抗するために養成したタリバン勢力や、イラン革命に対抗するために育成したイラクのフセイン政権が一転して癌化し、めぐり巡ってスポンサーアメリカに歯向かうようになった。その恐怖にさいなまれて、今日の疑心暗鬼に陥ったのが、この常軌を逸したセキュリティチェックなのである。まことに「因果応報」というしか言いようが無い。

今や飛行機が人々の下駄ならぬ羽根と化すまでに発達した航空輸送国家アメリカ。効率第一主義を標榜する社会システムで生きる人々は一分一秒の時間を節約したくて飛行機を利用する。それなのに、セキュリティチェックの所要時間を見越して離陸時刻の 3 時間も前から長蛇の列を作らなくてはならない。これは莫大な国家的不経済に違いない。巨大国家アメリカがアフガンで、イラクで、パキスタンで、シオンの丘で蒔き育てた悪の種が、アメリカの誇るありとある社会的・文化的システムを攻撃し、破壊しているのである。

アメリカを真にかけがえの無い友人だというのなら、この悪の連鎖をほどく手助けをして上げるのがとるべき正しい行為だったのだが、我が政府はそういう行動はついにとらなかった。かくてこの国で、セキュリティチェックが日常化する日はそう遠くない。